マが入り乱れて流布された。失業救濟の根本が需給調節に在る事は議論の余地はない、しかも商船教育は轉向困難な特種教育であるため螢雪の効を積み喜び勇んで校門を去る卒業生は其儘失業地獄に投げ込まれる當時の狀勢に於ては……近く需要を増す見込みも勿論ない……十數校は多きに過ぎる、之を廢合せよと云ふのは當然すぎる當然である、コレに學校廢すべからずの横車を押したのは公平に見て十一會に『非』がある、海員協會は之れに對し百方説得した……十一會は壓迫したと云ふて居る……が更に顧みず益々猛運動を續けるので定款の命ずる所なりとてサキの常務理事秘書を加へた三名の十一會首腦部を除名して益々喧嘩に花を咲かせ暫くは帝國議會を中心に陳情鬪爭をやつた結果十一會の建議案は採擇されただけで法律案にもならず議會は閉會となつたので喧嘩の舞台は神戸に逆戻りとなり協會の茶話會や評議員會のある毎に兩者は露骨な鬪爭を續けて居る中昭和八年夏頃十一會は商船教育改革案具現のため協會役員會を吾等の手にとのスローガンを掲げ運動資金の蒐集を始めた、コレは十一會の最も過てる戰術で、失業苦に喘ぎつゝある會員は聲を揃へてコレを攻擊した、何人の畫策か知らぬが一黨一派の利益のために協會を牛耳らんとするが如きは許すべからざるもので私が常任幹事の末席を汚して居た社外船同志會も此運動にはハツキリ反對の態度を以て臨んだ、兎角するウチに拾月となり投票用紙は配布され、愈々役員選擧が始まつたが十一會はサキのスローガンを押し立て直に運動に着手した。之と稍々遲れて無線グラブ其他の團体で組織された選擧對策聯盟は十一會とは無關係であり、商船教育改革案なぞはドーデも好いのだ、吾等の目的は協會の革正に在ると呼號しながら勇敢にも役員の過半數に及ぶ候補者を十一會系から推薦し無關係である筈の十一會の意圖を完全に表現した、ソして『御面倒に候えば當方にて記入致すべく云々』と選擧規則を無視したリーフレットを出し各港に人を派して不正投票の掻き集めを始めた、協會側はコレに對しドンナ戰陣を張るのであらふか、定款規則を眞向に振り翳して一流の彈壓をやるのかなと見て居ると、全く豫期に反し乱用の觀さへあつた『定款の命ずる所なり』を出さず、警告も聲明も出さず、表現方法に一寸技工を加へたゞけで聯盟と同じく不正投票掻き集め戰術を以て對抗し、從業員中最も正直な村越駒五郎氏の名を用ひて投票用紙と封筒を送つて下さいとやつた二事は幹部派の心事の愚劣さを全面的に暴露したものと言ひる。かくて